

横浜市子ども読書活動推進計画 概要

読書活動の意義：言葉を学び、感性を磨き、想像力や創造力を豊かにする ⇒ 子どもが、人生を主体的に、より良く生きていくための力を養う
読解力、表現力、コミュニケーション能力を高める

読書活動推進の視点

学校図書館の活性化

関係機関等の連携

この2点を核とし、概ね0～18歳を対象に、平成18～22年度の5年間の施策の例を示していく

↓
*乳幼児期の「与えられる読書」から「主体的な読書」への円滑な移行と習慣付けを、青年期前期までに行う事が大切

計画策定の背景：子どもの読書活動の推進に関する法律（13年12月）
子どもの読書活動に関する基本的な計画（14年8月）
神奈川県子ども読書活動推進計画（16年1月）

《横浜の子ども読書活動をめぐる現状と問題点》

- ①年齢が上がるにつれて読書が好きな子の割合が減り、1か月あたりの読書冊数も減っていく
- ②学校図書館で一度も本を借りない子どもが、小学2年生では15%だが、中学2年生になると80%以上もいる
- ③朝の読書活動を実施している学校や図書館と連携している学校数の割合が、全国平均に比べ少ない
- ④読書が嫌いな主な理由については、「どんな本を読んだらよいかわからない」という意見が多い

《具体的課題の整理》

*読書活動推進の目標・・・子どもの読書習慣の定着化と読書意欲の向上

- ①学校図書館機能の充実と活性化
- ②学校、市立図書館、図書施設、各種情報提供機関等との連携
- ③読書活動につながる教育内容・方法の工夫
- ④読書ボランティア等、市民による子ども読書活動推進への支援
- ⑤子どもと本の出会いを増やす環境づくり
- ⑥子ども読書活動の意義や、計画推進に関する普及啓発

（学校での取組）

- 小・中学校・・・○読書指導計画の立案 ○学習・情報センターと読書センターとしての機能整備
○朝の一斉読書活動の普及・拡充 ○学校図書館の蔵書整備と選書方法の改善
○保護者やボランティアによる学校図書館運営（整備、開館事務等）への協力支援
○教職員の読書推進、読書環境の整備
- 高等学校・・・○校内の読書活動の推進・読書環境の充実
○関係機関や図書ボランティア等との連携、ネットワークづくり
- 盲・ろう・養護学校・・・○養護学校等の専門性を生かしたセンター的機能の取組推進
○関係機関、図書ボランティア等との連携強化

（市立図書館の取組）

- 児童資料の整備・充実
- 外国人や障害のある子ども等への支援
- おはなし会等の行事の充実
- 読書相談・学習相談等の対応の充実
- 図書館からの情報の発信
- 学校図書館・市内図書施設への支援
- ボランティアとの連携・協働・育成
- 資料の再活用（リサイクル）

（幼稚園・保育所・家庭・地域等での取組）

- 幼稚園・保育所等と家庭との連携の推進
- 関係機関・地域ボランティア間の連携強化
- 保健所・福祉保健センターでの取組の充実
- 「親子で読む本のリスト」等の作成・配布
- 家庭教育学級や子育て支援事業での講座開催
- 読書活動コーディネーターの育成
- 市民団体のコーディネートによる読書活動団体のネットワーク化（モデル実施）